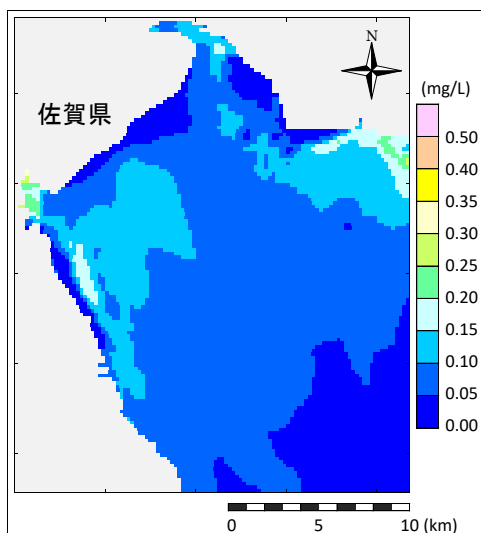
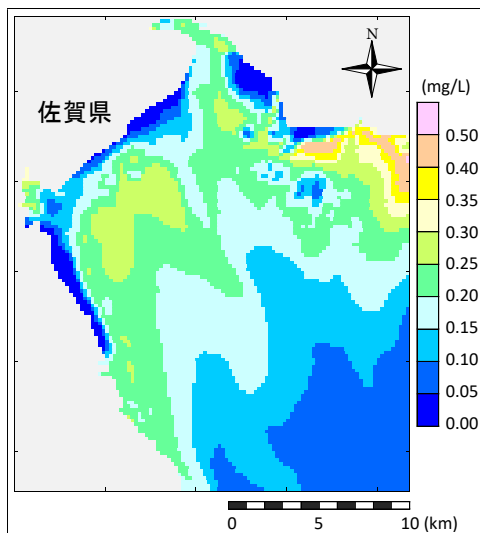
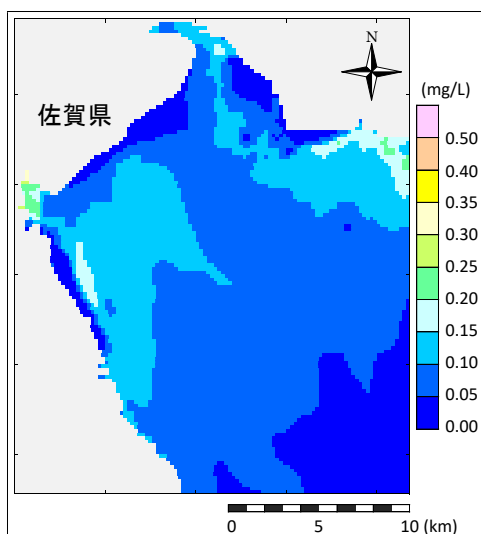




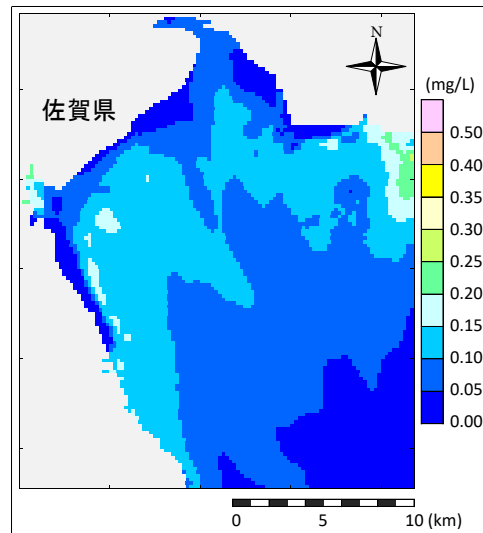
平成 19 年カキ礁—カキ礁なし



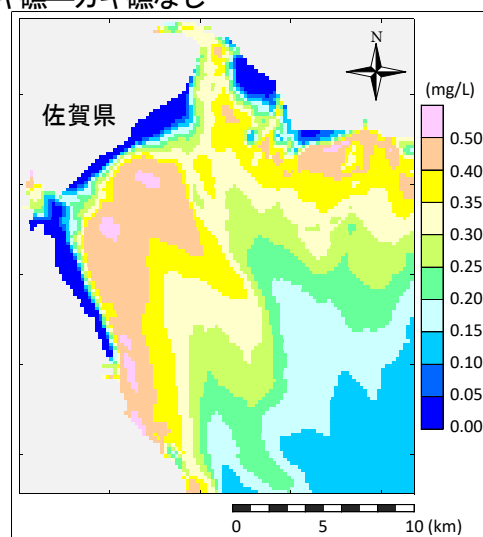
昭和 52 年カキ礁—カキ礁なし



カキ礁造成可能域その 1—カキ礁なし



昭和 53 年カキ礁—カキ礁なし



カキ礁造成可能域その 2—カキ礁なし

図 36 底層 D0 の水平分布の差分

② 底層 D0 が 3mg/L 以下となる累積時間の比較

各ケースの計算結果より、前掲の

図 16 に示した各点において、山口ら (2015) 5) が貧酸素水塊と定義した 3.0 mg/L 以下となる累積時間を集計し、図 37 に示した。

各点の累積時間は、平成 19 年カキ礁分布、昭和 53 年カキ礁分布、そしてカキ礁造成可能域その 1 の各ケースで、カキ礁なしの結果に比べて約 5～9 %の暴露時間の短縮となった。

さらに昭和 52 年ケースでは、約 6～13 %の暴露時間の短縮となり、カキ礁造成可能域その 2 ケースになると、約 9～19 %の短縮となった。

カキ礁の造成により、カキ礁分布域だけでなく、カキ礁が分布しない沖合の P6 においても、貧酸素水塊への暴露時間短縮に繋がる事が予測され、上記①の水平分布および差分分布においても確認された様に、底層の D0 環境が改善に繋がるものと推察された。

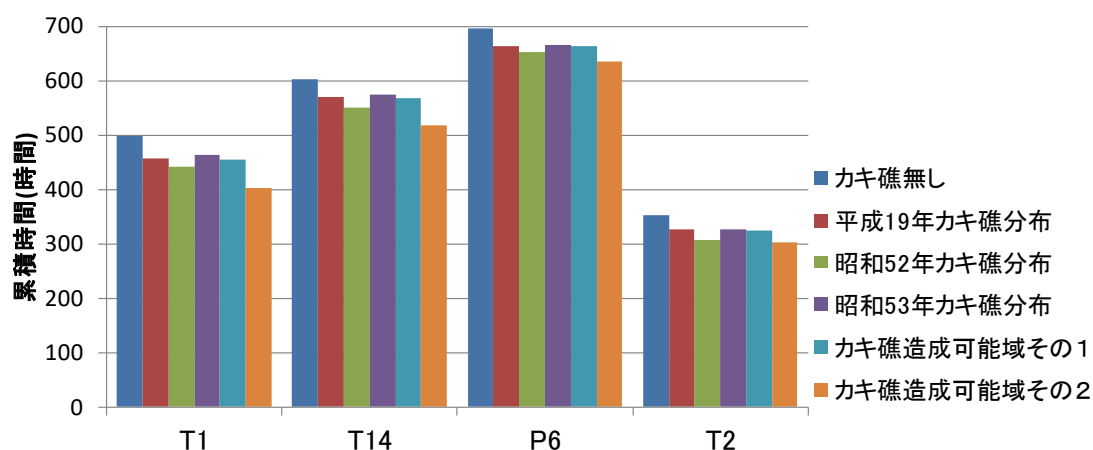


図 37 底層 D0 が 3.0 mg/L 以下となる累積時間比較